

大阪市立大学地理学教室

同窓会会報 第25号

事務局 〒536-8525 大阪市城東区森之宮2丁目1番132号

大阪公立大学 森之宮キャンパス 12F

大阪公立大学文学部地理学教室

TEL 06-6167-1457 e-Mail: suganotaku@omu.ac.jp

振込口座 00960-7-9642

大阪市立大学地理学教室同窓会第26回総会ご案内

本年夏に、本教室を含む大阪公立大学文学部が森ノ宮キャンパスへと移転しました。大きな環境変化の年であるとともに、これまでの伝統をどのように新しい環境で維持していくか、試行錯誤が続く年ともなります。平成12年の大阪市立大学地理学教室創立50周年を契機に設立された『大阪市立大学地理学教室同窓会』も、皆様のご尽力により活動26年目を迎えました。本同窓会の役割は、地理学の研究と教育の振興、地理学教室および現役学生等への支援など多岐に及びますが、最も大切なのは同窓生相互の交流と親睦にあるかと存じます。そのために、平成15年度より地理学教室恒例の年度末行事である卒論・修論発表会にあわせて年に1回の総会を開催しております。

今年度の第26回同窓会総会の開催については森之宮キャンパス森之宮ライブラリー4階イベントホールにて行います。第26回同窓会総会、予餞会・同窓会懇親会への参加を希望される方は、菅野(suganotaku@omu.ac.jp)に御一報頂けますと幸いです。

当日の準備のため、必ず事前に参加のご連絡をお願い致します。森之宮ライブラリーの4階入り口付近より会場にお入りいただけます。

記

1 第24回同窓会総会について

日 時 2026年2月14日(土) 午後5時30分~

場 所 大阪公立大学森之宮キャンパス 森之宮ライブラリー4階イベントホール
(<https://www.omu.ac.jp/morinomiya/index.html#access>)

次 第 (1)令和7年度 会務報告(会計報告を含む)について
(2)今後の活動について

2 予餞会・同窓会懇親会について

日 時 2026年2月14日(土) 午後6時00分~

場 所 大阪公立大学森之宮キャンパス1階 生協食堂

会 費 5,000円(ただし令和6年度卒業・修了生は2,500円)

お願い 予餞会費につきましては、同封の振込み用紙の通信欄に明細をご記入の上、ご納入ください(メール配信の方で予餞会・同窓会懇親会に参加される場合は、当日受付にてお支払いください)。なお、

予餞会にご参加の方は、会場準備の都合上、2月6日(金)までにお申し込みくださいますようお願い申し上げます。

問合わせ先

菅野 拓 (大阪公立大学文学部)

電話 : 06-6167-1457, e-mail : suganotaku@omu.ac.jp 携帯 : 090-7090-9822

令和7年度 大阪公立大学地理学教室 卒論・修論発表会 プログラム

<卒論発表>

13:00 民間教育における地域間格差

池原 茉奈

13:20 民間企業による空き家を活用したコミュニティースペースの運営方法
一大阪府内の三つの事例を比較して—

梅川 美乃里

13:40 妖怪の行動に関する空間論的研究

小川 晴叶

—屋外の機織姫の伝承実態の分布論的検討を通じて—

14:00 鉄道を活用した周遊型リアル謎解きイベントの実態把握と地域振興への可能性

清原 ゆい菜

14:20 東京都区部を対象とした民泊施設Airbnbの立地分析

西浦 理来

14:40 地域おこし協力隊による学校コーディネーター活動の実態

—学校を軸にした地方創生の地域への影響と課題—

山田 実咲

休憩 (15:00~15:15)

<修論発表>

15:15 大阪都心地域におけるニューカマー集住地域の形成プロセス
一大阪市中央区島之内地域を事例に—

錢 崑杉

15:45 島根県「竹島の日」条例制定における地方政治の隘路

村上 那由汰

16:15 「ふるさと教育」の成立と展開

—宮城秋田両県への国の教育政策の影響をみながら—

村野 元紀

16:45 地域特性と文化的背景から見る中国少数民族高等教育の現状と課題
—甘肃省と四川省を事例として—

劉 森

休憩 (17:15~17:30)

17:30 同窓会総会

18:00 予餞会・同窓会懇親会

令和7年度 卒業論文題目・要旨

民間教育における地域間格差

池原 茉奈

本研究では、山口県周南市を事例として、産業構造と進路選択との関連性を詳しく検討した。特に高等教育における地域間格差に着目し、大学受験産業の歴史的展開が重要な手がかりとなるため、三大予備校を中心に学習塾の変遷も分析した。都市と地方の教育関係者への聞き取り調査および統計資料を用いて教育の格差を明らかにするとともに、親の学歴や職業選択といった数値化できない要素が大学進学率に与える影響が浮き彫りになった。特に、周南市では親が高卒で工業系職業に就くことを望む傾向が、子どもの進路選択に大きな影響を与えている。また、地域社会の大学進学に対する期待や支持の薄さが教育環境の形成に障壁をもたらしていることも示された。これらの要素以外にも、教育の地域間格差には多様な要因が存在し、更なる研究の必要がある。

民間企業による空き家を活用したコミュニティスペースの運営方法—大阪府内の三つの事例を比較して—

梅川 美乃里

本研究では、民間企業による空き家を活用したコミュニティスペースの運営方法を明らかにする。大阪府内の三つの事例を対象に比較分析を行い、特に大阪市大正区の事例を中心として検討した。調査の結果、不便な立地や老朽化といった制約を抱える空き家であっても、運営方針や室内設計の工夫により、継続的な来訪や場を介した人の関わりが生じることが明らかになった。空き家を活用したコミュニティスペースは、一様なモデルではなく、状況に応じて成立する実践であることを指摘する。

妖怪の行動に関する空間論的研究—屋外の機織姫の伝承実態の分布論的検討を通じて—

小川 晴叶

本研究では、日本の伝承における妖怪の「行動」と「実体の有無」の関係性を、分布論的に分析する。屋外の機織姫（屋外で機を織る女性）の伝承を対象に、妖怪を怪奇現象の説明原理とする定説を全国的に検証する。その結果、怪音現象から実体ある妖怪が派生するという、伝承の発展は普遍的ではないと判明した。分析結果と織機・織維の先行研究を踏まえると、実体ある機織姫の伝承

は、屋外での機織というかつての習慣が象徴化されたものだと考察できた。

鉄道を活用した周遊型リアル謎解きイベントの実態把握と地域振興への可能性

清原 ゆい菜

本研究は、鉄道を活用した周遊型リアル謎解きイベントの実態を把握し、その構造を分析するとともに、地域振興に資する可能性を考察することを目的とする。調査の結果、イベントは公共交通の利用促進や地域の魅力発信に寄与する社会的意義を有しており、構造的集中や地域理解の限界を抱えつつも、地域振興のきっかけとなり得ることを明らかにした。イベントの地方展開には行政との連携や運営体制の工夫が不可欠である。

東京都区部を対象とした民泊施設Airbnbの立地分析

西浦 理来

本研究では、地理情報システムと統計的アプローチを用い、東京都区部におけるAirbnbリスティングの空間立地特性を明らかにすることを目的とする。結果として物理的・制度的制約が市場への参入を規定する一方で、一度参入障壁を越えた地域においては、参入を促進する元は異なる要因がリスティング増加を加速させるという二段階の立地メカニズムが存在することが確認された。またGWR分析の結果、物理的要因と制度的要因の乖離も確認された。

地域おこし協力隊による学校コーディネーター活動の実態—学校を軸にした地方創生の地域への影響と課題—

山田 実咲

本研究は、地域おこし協力隊制度と関連させて実施されている学校コーディネーターについて調査し、地方における教育現場の課題と可能性を明らかにする。協力隊の介入が教員や生徒、地域住民にどのような影響をもたらすかを考察する。調査の結果、協力隊は地域ぐるみの教育や教員の負担軽減に寄与していることが明らかになった。活動の属人化を防ぐ仕組み作りや学校コーディネーター任期終了後の雇用体制の検討が必要であろう。

以上6編

令和7年度 修士論文題目・要旨

大阪都心地域におけるニューカマー集住地域の形成プロセス—大阪市中央区島之内地域を事例に—

錢 脩杉

本研究では、大阪市中央区島之内地域を対象に、1980年代以降増加したニューカマー外国人の集住が地域社会に与えている影響を明らかにする。具体的には、外国人住民の動態変化や歴史的背景、エスニックビジネスの変容を基に、地域内での居住実態や転轢を考察する。調査の結果、島之内地域は1980年代以降のフィリピン人流入を起点に、2000年代には韓国・朝鮮人、2010年代以降は中国人の流入が顕著となり、多国籍な外国人住民が共存する地域へと変貌した。特に近年、中国系エスニックビジネスの発展により「ネオ中華街」として注目される一方、住民間の文化的摩擦や社会的転轢も顕在化している。また、住民構成には多国籍化や女性住民の多さが特徴的であり、短期滞在者と定住者が混在する複雑な社会構造の形成を示している。これらの分析を通じて、島之内地域は都心型のニューカマー集住地域の典型例として、外国人住民の集住による地域の再編を理解する手助けになるであろう。

島根県「竹島の日」条例制定における地方政治の隘路

村上 那由汰

本研究は、島根県が竹島問題を前景化させようとした過程に着目し、その結果として外交関係や地方政治にどのような変化が生じたのかを明らかにすることを目的とする。具体的には、島根県の地方紙の記事を用いて、竹島問題が1970年代には漁業など生活に関わる課題として語られていた一方で、次第に領有権や歴史をめぐる政治的な問題として位置づけられていく過程を指摘した。さらに、「竹島の日」条例の制定過程を検討することで、国の対応に対する不満が地方政治の行動を後押ししたことを示した。一方で、条例制定に対する韓国側の反応や、鳥取県における対韓交流の事例を分析し、対立の強まりと関係維持の試みが同時に存在していたことを明らかにした。以上から、竹島問題は単純な外交対立ではなく、政府や島根県、地方自治体の行動を通じて多層的に展開してきた問題であり、そのことが問題の複雑化と長期化をもたらしていると結論づけた。

「ふるさと教育」の成立と展開—宮城秋田両県への国際教育政策の影響をみながら—

村野 元紀

小中学校の授業で実施される地域学習は「ふるさと教育」として自治体の教育計画に表現されることが多い。しかし文部科学省の公式文書にはこの用語は存在せず、その起源や定義が不明である。本論文の目的は、「ふるさと教育」の成立と展開を国際教育政策との関連をみながら明らかにすることである。本論文では宮城県と秋田県における1980年代と1990年代の「ふるさと教育」の歴史を文献や新聞、県議会資料などを元に明らかにし、また文部省及び文部科学省の政策との関連性を年代ごとに分析した。その結果、「ふるさと教育」は宮城秋田両県で成立しそれには国際教育政策が影響を与えていたこと、戦前から東北地方では中央によらない独自の郷土教育や綴方教育が行われていたこと、宮城県は全県的に行われた「ふるさとづくり」政策の一環で行われたのに対し、秋田県は教育政策の中心として多くの予算が割かれ、総合的な学習と結びついたことがわかった。

地域特性と文化的背景から見る中国少数民族高等教育の現状と課題—甘肃省と四川省を事例として—

劉 森

本研究は、甘肃省（永靖県・東郷県・武山県）と四川省を事例に、地域特性と文化的背景が少数民族学生の大学進学と学業成果に与える影響を明らかにすることを目的とした。高校段階では3県の学校資料と教員聞き取りを収集し、大学段階では西北民族大学・西南民族大学の予科学生を中心とした質問紙調査と補足インタビューを行った。分析の結果、進学機会は①上位大学を含む教育資源の空間的偏在、②家庭の経済条件、③漢語適応を軸とする言語環境、④加点・予科など支援政策が相互に作用して規定されることが確認された。特に東郷県のような農村・少数民族集住地では言語・経済の制約が成績と進学を下げやすい一方、永靖県では漢語環境や家庭投資により格差が縮小しやすい。支援政策は補完効果を持つが、地域差と進学後支援の不足が課題である。

以上4編

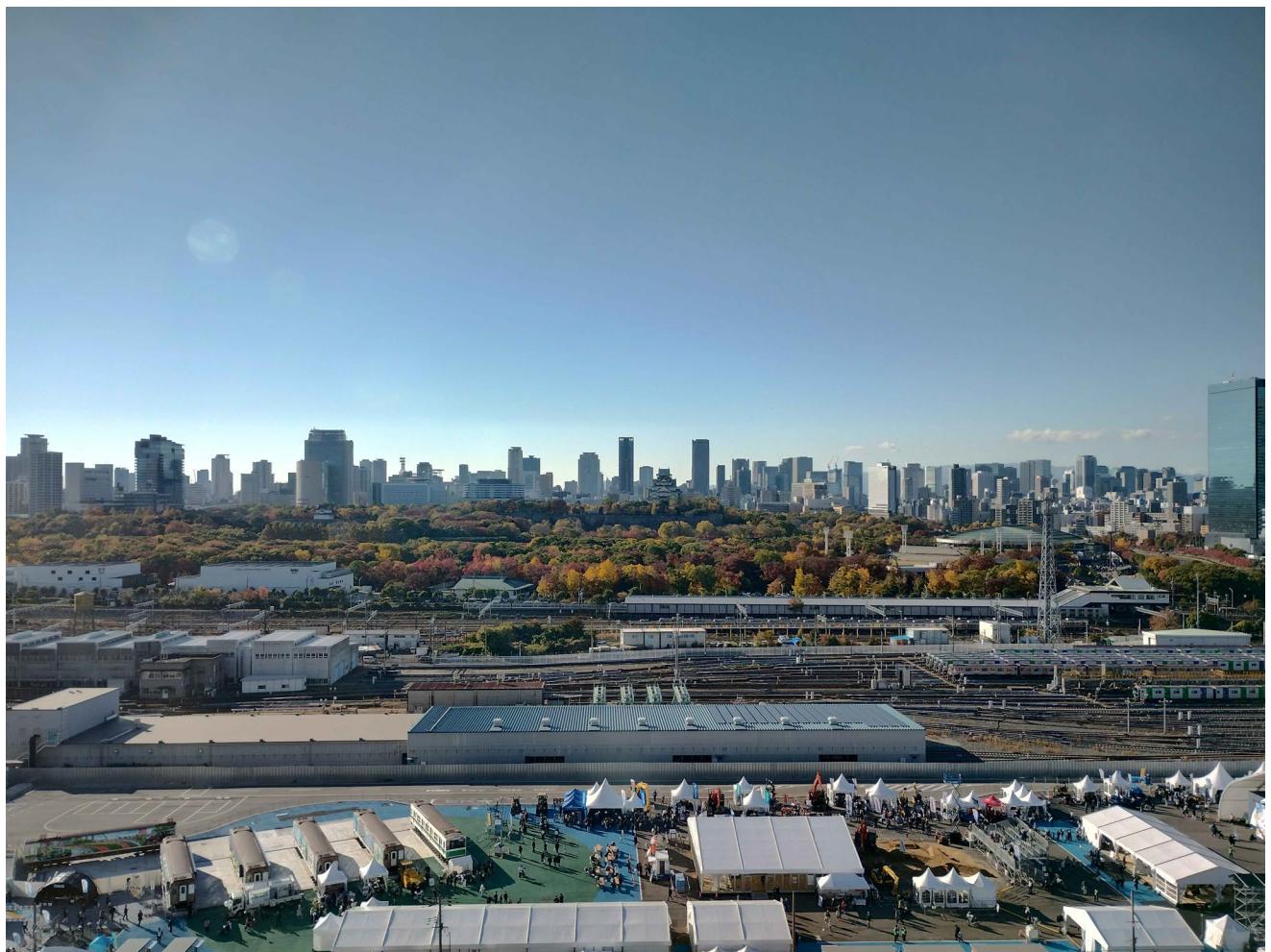
☆同窓会だより

[第 25 回同窓会総会報告]

2025 年 2 月 22 日（土）午前 10 時より卒論修論発表会が開催されました。卒業論文 13 篇、修士論文 1 篇の発表が行われ、活発な質疑応答がありました。引き続き、第 25 回同窓会総会が午後 5 時 30 分より開催され、同窓会・会則変更の審議、前年度の会務報告等に関する報告が行われました。

[新キャンパスへの移転]

2022年4月から大阪市立大学と大阪府立大学が統合され大阪公立大学として開学しました。また、2025年後期に地理学教室は杉本キャンパスから森ノ宮キャンパスに移転しました。地理学教室においては学生サロンとして活用している部屋が大きくなり、杉本キャンパス時よりも活発に、学生・教員間の交流が行われています。



森之宮キャンパス12階スカイラウンジからの眺め

大阪市立大学地理学教室同窓会役員

(任期: 令和7年3月~令和9年2月)

会長 山野 正彦

顧問 山岸 和一郎 石原 照敏 松下 任久

運営委員長 菅野 拓

運営委員 青木 翔平 大場 茂明 岸本 智洋 島崎 雄貴

会計 木村 義成

会計監査 立見 淳哉 中西 広大 いずれも敬称略

* 大阪公立大学地理学教室ではホームページを作成して、教室スタッフの紹介、講義概要、大学院生の研究報告などの様々な情報を発信しています。同窓会のページも設けておりますので、是非一度ご覧下さい。アドレスは、<https://www.omu.ac.jp/lit/geo/> です。

* 第25回大阪市立大学地理学教室同窓会総会にて、報告させていただきましたが、今回の郵送をもって同窓会報の郵送を廃止させていただきます。今後は、当教室ページやメーリングリストで同窓会関連の連絡をさせていただきます。本郵送物をお受け取りの方は、お名前、ご住所、卒業年度をご記載のうえ、lit-geo@ml.omu.ac.jpに、ご一報ください。